

行政調査報告書「まちづくり特別委員会」

平成 30 年 10 月 24 日～26 日

■一般社団法人城野ひとまちネット（福岡県北九州市）

『BONJONO について』



恵まれた地区特性を活かし、暮らしに関する二酸化炭素排出量の大幅な削減と子どもから高齢者まで暮らしやすく将来にわたって住み続けられる持続可能なまちづくりが計画され、公共施設等の整備が行われた。住民・事業者自らがまちづくりの担い手となるため、全員参加の仕組みとして城野ひとまちネットを設立している。本市においても民間主導のまちづくりを考える参考としたい。

■We Love 天神協議会（福岡県福岡市）

『民間主導のエリアマネジメントについて』

天神地区は交通渋滞、違法駐輪、郊外ショッピングセンターとの競争、ライフスタイルの転換など多くの課題があった。その解決に向けて地元大企業や商店街、住民、行政などで構成された協議会である。地元が一丸となり資金を集め運営を行っている。事務局職員は大手企業からの出向者が多く、資金繰りや企画の重要な存在であり、本市も中心市街地の活性化を進めていくうえで重要と感じた。



■高松丸亀商店街（香川県高松市）

『民間主導の商店街再開発事業について』



全長 470m の商店街を 7 つの街区に分け、段階的に再開発を行ってきた。街区ごとに特徴を持たせ、以前の丸亀町に不足していた機能を補った。地権者の利権で通常まとまらない土地問題を、土地の所有権と利用権を分離する定期借地権で解決している。これは困難も多かっただろうが素晴らしい制度だと感じた。また、「医療」を構想に取り入れ、まちの中心部で医療機関や商業施設を利用でき、高齢者にとって暮らしやすいコンパクトシティが実現している。